

# 第3回浜松市立北部中学校運営協議会

令和7年2月7日(金)

14:00～ 会議室

校訓 「切磋琢磨 文武両道」

学校教育目標 「自分自身を『かけがえのない存在』であると思える生徒の育成」

目指す学校像 「あいさつができ、元気にあふれ、規律のある学校」

開会 開催要件（委員の過半数の出席）確認 <司会： 、記録： >

1 会長あいさつ

2 校長あいさつ

3 議長の選出（出席した委員の中から互選）

4 前回会議録確認

5 熟議 <議長： >

（1）学校関係者評価について（来年度の方策について）

・学校の自己評価の説明（「いじめ防止等のための基本方針について」含む、別紙）

・次年度学校運営の基本方針について（校長より）

・来年度の方策について（熟議）

（2）学校運営協議会の自己評価

6 報告

・夢育やらまいかCS加算分の報告

7 今後の予定と連絡

3月18日（火）	卒業式
4月25日（金）	第1回運営推進協議会 13:30～（予定）
11月17日（月）	第2回運営推進協議会 14:00～（予定）
2月6日（金）	第3回運営推進協議会 14:00～（予定）



## 令和6年度 第2回 北部中学校運営協議会 会議録（要点記録）

1. 開催日時 令和6年11月18日(月)14時00分から15時30分
2. 開催場所 北部中学校 会議室
3. 出席委員 平間 一彦 遠藤 喜和 石坂 昌義  
高木 早由里 佐野 孝輔
4. 欠席委員 谷口 幸子
5. 学校支援コーディネーター 渡邊 薫
6. 学校 渡辺 博幸(校長)村松 還(教頭)鈴木 寛之(教務主任)  
茂 一美(CS担当)鈴木 千佳(CSディレクター)
7. 教育委員会 牧野 知子(教育総務課)
8. 傍聴者 なし
9. 会議録作成者 鈴木 千佳(CSディレクター)
10. 議長の選出 佐野委員が、本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。
11. 協議事項  
(1)・本校の部活動について  
・浜松市の今後の部活動の方針について  
(2)学校評価の内容について

### 12. 会議記録

・司会の教頭より、委員総数6人のうち5人の出席があり過半数に達しているため、会議は成立している旨の報告があった。

・初めに会長と校長より挨拶があり、続いて熟議に先立ち委員の方々に2年生の合唱風景をご参観いただいた。

#### (1)部活動について

##### ●本校の部活動について

教頭より本校部活動についての資料説明があり、委員からは以下のような発言があった。

・外部クラブチームでの活動は入試において評価されるのか(高木委員)

→外部クラブチームに所属する生徒の活躍は、クラブチームの方から伺った内容を調査書に記述し高校に評価していただいている。(教頭)

・部活動の内容と先生方の活動経験においてはミスマッチが起こる場合もあると思われるが、顧問の配置は数合わせでされているのか、先生方の活動経験に合わせてされているのか。(石坂委員)

→部活動の内容と職員の活動経験をすべて合わせることは難しい。職員には活動経験に関係なく各部の顧問をお願いしている。(教頭)

・先生方は授業で専門知識を教え、その上、部活動も指導しなければならず大変だと思う。

授業と部活は切り離してもいいのでは。保護者としては先生方には学習面を指導してもらい、部活動は外部の指導者に来てもらったほうが整合性があるように思う。(石坂委員)

・先生方の専門分野や得意とすることを「部」として活動させている学校はあるか。北部中は運動部が多く文化部の数が少ないので、先生方が得意とするジャンルの部活動があればより多様な活動ができると思う。(CSコーディネーター)

→一部、そのような学校はある。パソコン、科学系、ボランティア、将棋は聞いたことがある。(校長・教頭)

### ●浜松市の今後の部活動の方針について

教頭より浜松市の今後の部活動の方針についての資料説明があり、委員からは以下のような発言があった。

・以前から部活動の地域移行の話は聞いてきたが、以前も現在も状況はあまり変わっていないように思う。(遠藤委員)

→方向性はあっても環境整備ができていない。会費の管理など、学校としては難しい案件もある。(教頭)

・子供たちの希望をかなえつつ、学校ができることをするしかない。(遠藤委員)

・部活動の顧問は手当があるのか、サービス労働なのか。(佐野委員)

→手当はあるが、休日などは拘束時間が長いことも多く、時給に換算するとかなりの少額になる。(校長)

・(地域移行に関して)ボランティアだけの運営は難しいのではないか。

地域の環境整備ができていないと難しいと思う。(佐野委員)

・(外部クラブチームと比べて)部活動は経済格差が中和できるが、スポーツによっては親の経済力が絡んでくる。国・県・市は先生の働き方だけでなく、子供主体で考えるようにしなければならない。(石坂委員)

・地域移行がすすむと、部活動本来の良さが減ってしまい寂しい気持ちもある。部活動は先生方の負担が大きく大変であること、今までの良い点は残しながら新たな展開をしていかなければならないと思うと、話がなかなかすすまないことも理解できる。(高木委員)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(2)学校評価の内容について

教務主任より学校評価アンケートについての資料説明があり、委員からは各項についての質問や改善点の提案があった。

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

・報告

学校支援コーディネーターより以下の報告があった。

・3学期に2年生を対象として行われる素話について

CS 担当より以下の報告があった。

・3年生面接練習の面接官の方々について

・その他の連絡事項

次回の学校運営協議会の開催日時と、今後の学校行事予定の連絡があった。

・次回の開催日時

令和7年2月7日(金)14時00分から

# 令和6年度 浜松市立北部中学校 学校評価報告書

## 1 自己評価の結果より

### (1)生徒用アンケート

○「当てはまる」と「やや当てはまる」で85%を超えたものは

- ・私は、自分の将来に対し、夢や希望を持っている。 80.6%
- ・私は、学校行事に積極的に取り組み、自分を高める(達成感を得る)ことができた。 91.9%
- ・私は、授業に意欲的に取り組んでいる。 89.5%
- ・先生は、分かりやすく授業を進めている。 89.5%
- ・先生は、授業で話し合ったり、友達と力を合わせて取り組んだりする機会をしっかりと設けている。 97.6%
- ・先生は、授業で、自分の考えをまとめる機会をしっかりと設けている。 97.7%
- ・私は、部活動(校外活動)に目標をもって取り組んでいる。 93.9%
- ・私は、気持ちのよいあいさつを進んで行っている。 86.8%
- ・私は、学校での自分の役割(委員、係、清掃等)に積極的に取り組んでいる。 93.6%
- ・私は、時間や学校のきまりを守り、規則正しい生活をしている。 91.9%
- ・私は、登下校や家庭生活において、交通マナーをしっかりと守っている。 98.3%
- ・私の学級、学校は安心できる場所だと感じている。 86.4%
- ・先生は、学校生活の中でよく声をかけてくれている。 90.7%
- ・学校は、情報をたよりなどでわかりやすく発信している。 94.2%
- ・私は、北部中学校での学校生活は充実していると感じている。 92.8%

●家庭学習する時間を確保していると答えた生徒は、65%程度であった。また、SNS等の節度をもった利用ができていると答えた生徒が85%を下回り、昨年度よりもやや低くなっている。

### □考察

先生方の取り組みの成果で、学校行事や授業での成長や価値を感じている生徒が多い一方で、学校を離れた場所での自己規律が確立できていない。

### (2)保護者用アンケート

○「当てはまる」と「やや当てはまる」で85%を超えたものは

- ・お子さんは、登下校や家庭生活において、交通マナーを守っている。 87.0%
- ・お子さんの北部中学校での学校生活は充実している。 87.3%
- ・学校行事は、お子さんの成長をうながすものになっている。 94.0%
- ・学校は、命の大切さについて教えている。 88.8%
- ・学校は、社会のルールやマナーについて伝えている。 93.7%
- ・学校は、いじめのない集団作りに努めている。 89.2%
- ・学校は、生徒一人一人の理解に努めている。 85.5%
- ・学校は、三者面談等の充実に努めており、相談しやすい。 86.9%

●学校教育目標を意識した教育活動ができていると感じられる割合が85%を下回り、昨年度よりも低くなっている。

### □考察

学校の取組には高い評価をしているが、教育活動の成果について、子供の姿からは感じにくいようである。

### (3)教師用アンケート

○「主体的・創造的・協働的に学習に取り組めるような授業を行っている」と答えた職員が昨年度と変わらず、95%を越える割合である。

○「いじめ」について

①絶対に許されない、卑劣な行為で、どの子供にも起こりうるという認識

②未然防止、早期発見、早期対応

③温かで優しい人間関係を築き、いじめをしない、許さない、立ち向かう子供の育成

④地域や家庭と一体になって、協力して一刻も早い解消に向かう姿勢

以上の4つの項目は、ほぼ全員が「あてはまる」という回答で、大変高い数値を示し、「あまり当てはまらない」「当てはまらない」という答えが見受けられなかった。

#### □考察

今年度も大多数の職員が更なる授業改善を図り、学習指導要領や学校教育目標を意識した活動を実施することができていた。また、いじめに対する関心度は大変高く、実際の生徒指導においても、生徒や保護者との関わりを大切にしながら、全職員で行うという態勢のもと、即対応、即指導が徹底されている。

※ 詳細なデータは、別冊の「令和6年度学校評価・令和7年度教育課程編成会議」の資料をご覧ください。

## 1 本校の特色・伝統等

- ・1947年4月1日開校（78年目）。2012年度に新校舎完成。
- ・浜松市中心部の住宅地にあり、近隣には静岡大、浜松学院大、浜松北高、浜松市立高、浜松商業高、城北図書館等がある文教地区。サラリーマンのほか、自衛隊関係者が多く見られる。
- ・地域、保護者の学校への関心や期待は高く、協力的な方が多い。現在、学校全体としては落ち着いており、多くの生徒が授業や部活動、学校行事等に前向きに取り組んでいる。
- ・過去には生徒指導に苦慮していた。現在も、家庭環境的に課題を抱えている生徒や、発達特性が強い生徒、人間関係づくりが苦手な生徒も一定数見られる。保護者対応を含め、丁寧な教育活動が必要である。
- ・1年生の春に25kmを歩く三ケ日自然体験学習は伝統行事となっている。2年生の野外活動を令和5年度より開始した（令和5年度は焼津、6年度は美浜、7年度は御殿場）。3年生の修学旅行は、道東を訪れ北方領土学習を行っていたが、新型コロナの影響により中止した（令和6、7年度は京都・奈良方面。8年度は広島・京都方面）。

## 2 学校経営の基本的な考え方

かつて問題行動が多発し生徒指導に苦慮した時期を乗り越え、現在は落ち着いた雰囲気の中で教育活動が行われている。どのようにして学校全体の落ち着きを取り戻してきたのか。

当然のことながら、特効薬があったわけではない。諸先輩方が地道な努力を粘り強く続けたからこそ、現在の北部中があることを肝に銘じなくてはならない。毎日の1時間1時間の授業を大切に、時には歯を食いしばって日々生徒指導を積み重ね、さらに、部活動や学校行事に一生懸命取り組んだこと。決して力で抑え込もうとしたわけではなく、生徒に自己肯定感、自己有用感を味わわせるためにはどうしたらよいのかと考え続けたこと。生徒の思いに耳を傾け、困り感に寄り添い、確かな信頼関係を築いたことである。

保護者対応にも同様のことが言える。学校への要望は「困っている」「助けてほしい」気持ちの表れとも考えられる。短絡的にクレームと捉えて対決姿勢を示したり、逆に怖がったりすることなく、冷静かつ丁寧に対応したい。生徒への関わりと同様、保護者の思いに寄り添うことができる教職員でありたい。また、特に対応の難しい生徒・保護者こそ、普段からの関係づくり、多くの職員で関われる関係づくりに努めたい。

一方で、最近の傾向として、レジリエンス（困難に直面したときにうまく適応する能力）の育成が課題としてクローズアップされている。昨今、学習の遅れや人間関係トラブルなど、困難に直面すると、その状況を責任転嫁したり、簡単に逃げ出してしまったりするケースも少なくない。このような実態を踏まえ、どうしたら粘り強く困難に立ち

向かい、乗り越えて達成感を味わい、「自信」や「強さ」「しなやかさ」を身に付けさせ、成長させることができるだろうか。

生徒に「苦しい時にこそ頑張る力」を身に付けさせることは、我々教職員にとって大きな役割の1つである。もちろん、一律に叱咤激励するだけでは生徒の心にも保護者の心にも響かないことが多い。逆によかれと思った指導が大きなトラブルを生み出してしまうこともある。大切なことは、相手（生徒、保護者）のことをよく知り、状況を見極めることである。家庭環境はもちろん、生育歴や人柄、友人関係、得意なこと・不得意なことなど、どれだけ相手のことを知っていて、どれだけ冷静に状況を見極めることができるか。そして、築き上げた信頼関係を土台として、教職員一人一人の持ち味を生かしつつ、チームとして、その生徒・その保護者に合った対応をしていくことが大切である。生徒・保護者の思いに寄り添うことが大切なのはもちろんだが、必要なときには愛情を持って叱り、生徒一人一人に「頑張ろう」というメッセージを送ることができる教職員でありたい。

最後に、「笑顔の連鎖」について触れたい。「教職員の笑顔 → 生徒の笑顔 → 保護者の笑顔 → 地域の笑顔」である。まずは、教職員が笑顔で働ける職場であることが大切である。我々教職員にも得意なこと、不得意ことがある。お互いにフォローし合い、高め合い、競い合える関係づくりをしたい。「チーム北部中」「チーム学年」として一丸となり、生徒一人一人の健やかな成長のために結束できる集団でありたい。そのためにも、平時の勤務習慣は心身ともにゆとりがあるものにしたい。日常、生徒と直接に関わる教職員が元気でいられることが極めて大切だからである。そして、生徒や保護者に困り感が見られるときにこそそれを支え、安心感や成長実感を与えてあげられるような職員集団でありたい。

### 3 校訓・学校教育目標

- ・校訓 「切磋琢磨 文武両道」
- ・学校教育目標 「自分自身を『かけがえのない存在』であると思える生徒の育成」

#### 《 学校教育目標について 》

自分自身を「かけがえのない存在」であると思えるには、まず「自分の良さ」「自分らしさ」に気づくことが必要である。自分にはこんな良さやらしさがあり、それを伸ばそうとする意欲こそが「生きる力」や「学びへの意欲」になる。私たちは、生徒一人一人の良さやらしさに目を向け、そこに気づかせ、伸ばしていくサポートをしたい。

### 4 学校経営の重点

#### ① 授業の充実

- ・土台となる集団としての学習規律
- ・どの子にも驚きや発見、成長実感が得られる授業づくり
- ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業づくり

#### ② 愛情あふれる生徒指導

- ・土台となる信頼関係、生徒理解（家庭環境、生育歴、人柄 等）
- ・迅速な情報共有、組織的対応。信頼されるいじめ対応
- ・生徒や保護者の思い、困り感に寄り添った生徒指導

- ③ 生徒が一生懸命に取り組む学校行事、部活動
  - ・ 仲間との絆・感動の体験
  - ・ 困難に立ち向かおう、苦しい時こそ頑張ろうという力の育成
  - ・ 集団における個の在り方、個を結集した集団の力を学ぶ場
- ④ キャリア教育の深化、充実
  - ・ 将来の夢、希望、志を育む
  - ・ 「社会に出て通用する人に育てたい」教職員の願い
  - ・ 「社会に出て通用する人になりたい」生徒・保護者の願い

## 5 本年度の課題として

- ・ 部活動の見直し（下校時刻の適正化、運営方針の改定、数）
- ・ 校則の見直し（靴、靴下、防寒具等）
- ・ P T A改革（加入率低下への対応、会費の使途、活動の在り方）

# 校訓：切磋琢磨・文武両道

学校教育目標：自分自身を「かけがえのない存在」として育てる生徒の育成



## 学校経営における3つの柱

豊かな感性

確かな学力

健やかな心身

「自己肯定感・自己有用感」  
を育てる指導

「予測できない未来に対応できる学力」  
を身に付ける指導

「健全なる精神」と「健全なる身体」  
を育てることを意識した指導



### 1 生き方教育の推進

- ・他を思いやる心、困難に立ち向かう心、自分の非を素直に認める心など、生徒の心を育む道德教育の充実
- ・読書活動の活性化
- ・いじめ撲滅を意識した語りかけ
- ・キャリアパスポートの活用

### 2 時代に合った学校行事・部活動の推進

- ・2大行事(緑翔祭・体育大会)の充実
- ・仲間との絆を深め、生き方の視野を広げる宿泊行事
- ・縦割り活動(各種コンテストの実施)
- ・仲間とともに粘り強く頑張る部活動

### 3 支援を要する生徒の理解、 個に応じた教育の推進

- ・校内まなびの教室の活用
- ・みどり学級と通常学級の交流

### 1 学習指導要領に沿った各教科の指導方法と評価

- ・確かな単元構想に基づいた授業
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両立を目指す授業
- ・主体的・対話的で深い学びを実現する授業(生徒が能動的に取り組む学習の推進)
- ・ICTの有効活用
- ・定着度調査と課題解決診断調査の実施
- ・アウトプットの機会を増やす取組

### 2 学習習慣の定着

- ・意欲化を図る指導の工夫(どの生徒も成長実感を感じられる授業づくり)
- ・適切な課題の提供、提出

### 1 基本的な生活習慣の確立

- ・時を守り、場を清め、礼を正す
- ・笑顔であいさつ
- ・素直に「ありがとう」「ごめんなさい」

### 2 健康な体づくり

- ・体育活動の充実  
意欲化を図る指導の工夫
- ・保健指導  
レジリエンスの育成  
要治療生徒への指導  
感染症対策指導
- ・食育指導
- ・不登校、欠席生徒への丁寧な関わり  
SC、SSWとの連携

### 3 安全教育の推進

- ・生命尊重(命の講話)
- ・避難訓練の継続と改善
- ・交通安全、校内安全意識の向上

～ 未来創造への人づくり ～ キャリア教育を核とした教育活動



～ 市民協働による人づくり ～ 地域・保護者とともにある学校

#### 教職員

教育に携わっているという熱い思い・愛情・専門性を土台として、思いやりの心を持ち、お互いを認め、助け合って何事にも取り組む職員集団(チーム北部)



#### 地域・保護者

- ・北部中学校校区の連携(小・中の連携)
- ・地域の教育力を生かした教育活動推進(コミュニティ・スクールを活用し、キャリア教育を推進する)

## 学校運営協議会 年間計画

令和7年4月1日～令和8年3月31日

※ 委員の過半数の出席がないと開催できません。

※ 感染症の感染拡大防止等、状況により、開催が中止、あるいは延期になる場合があります。

回	日時 会場	主な内容 熟議のテーマ 等	備考
1	4月25日 金曜日 13:30～15:30 会議室	熟議テーマ (1)学校運営の基本方針について 説明 ⇒ 質疑・応答、熟議 ⇒ 承認 (2)いじめ防止等のための基本方針について 説明 ⇒ 質疑・応答、熟議 (3)夢育やらまいかCS加算分についての意見書について (4)学校運営協議会 今年度の目標の決定	
2	11月17日 月曜日 14:00～16:00 会議室	熟議テーマ (1)生徒の実態とキャリア教育の在り方 (2)部活動の在り方	
3	2月6日 金曜日 14:00～16:00 会議室	熟議テーマ (1)学校関係者評価について 学校の自己評価(結果、分析・考察、改善方策等)の 説明 ⇒ 改善方策について熟議(この結果を学校関係者評価として提出)⇒協議会終了後、見直し⇒公表⇒次年度へ反映 (2)次年度学校運営の基本方針について説明 説明 ⇒ 質疑・応答、熟議 (3)学校運営協議会の自己評価 □ 夢育やらまいかCS加算分の報告	

令和6年度 学校運営協議会 座席表

ホワイトボード

		平間 一彦 会長		
	遠藤 喜和 委員		石坂 昌義 委員	教育委員会 総務課
	谷口 幸子 委員		高木 早由里 委員	
	佐野 孝輔 委員		渡邊 薫 <small>学校支援コーディネーター</small>	
	校長 渡辺 博幸	教頭 村松 還	教務主任 鈴木 寛之	CSディレクター 鈴木 千佳
			CS担当 茂 一美	

出入口